

「先端技術を活用したICT活用指導力を高める教職科目等の開発及び全国展開」

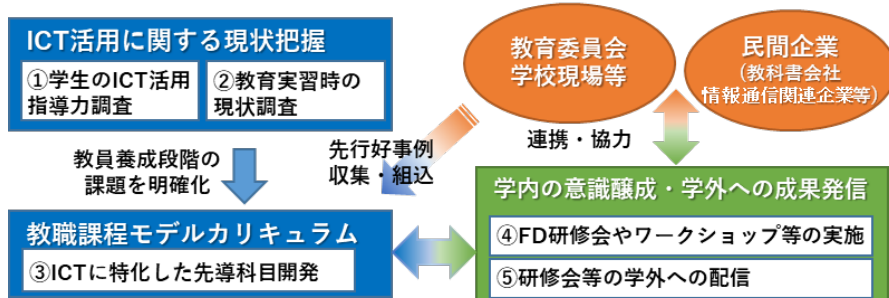
事業の概要

◆課題認識

- 「1人1台端末」等が整備された現在、ICTを教育の中でいかに効果的に活用するかが重要であり、教員のICT活用指導力向上が喫緊の課題となっている。

◆目的・方法

- ICT活用指導力を向上させる4年間の教職課程モデルカリキュラムを構築する(①・②・③)。
- ICTに特化した先導的な教職科目を開発する(③・④)。
- 全国展開に向けた方策を検討する(④・⑤)。



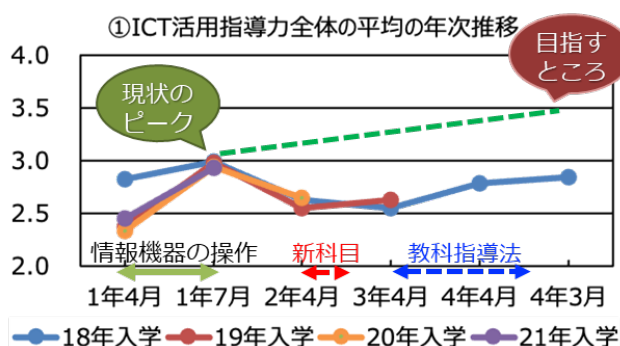
取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- 「教員のICT活用指導力チェックリスト」を用い、学生のICT活用指導力の状況変化を明らかにする。
- 教育実習時のICT活用等についての現状を把握する。
- 4年間を通じたICT活用指導力の育成に向けたFD研修会等を開催し、チェックリストやコアカリキュラムに対応づけたモデルカリキュラムと新科目を開発する。
- 教育委員会と連携した情報モラルや教材開発のFD研修会や、教科書会社と連携したデジタル教科書体験型研修会を開催する。
- FD研修会等を学外（教育委員会や教職課程を有する大学）に配信するとともに、情報通信関連企業等と連携したクロスアポイントメントや附属学校の研修などを実施し全国展開の基盤を作る。

◆成果

- 現状のICT活用指導力のピークは、1年前期であり、継続的に向上させるためには、4年間のモデルカリキュラムに沿った育成の必要性が確認された。
- 実習生は教員自身による教材の提示での活用はしていたが、1人1台端末での児童生徒の活用に課題があることが明確となった。
- FD研修会等の成果を基に新科目を開発し試行・評価した。また各教科の指導法について、現状の講義内容とチェックリストの対応づけを行った。
- 情報モラルや教材開発のFD研修会等を行い、研修後のアンケートから9割以上が内容をもっと学んでみたい・活用してみたいと回答しており、意識醸成につながった。また、教科書会社7社と包括連携協定を締結するとともに学生や教職員を対象にして教科毎にデジタル教科書体験型研修会を4回開催し、共同研究を行うための具体的な内容及び体制について検討を開始した。
- 上記③④で実施したFD研修会等の動画を愛知県内の54市町村教育委員会や連携協定締結の6大学に配信した。クロスアポイントメントの共同研究では小中高のICTを活用した授業を参観し、教員養成に向けた課題を検討した。



今後の展望

◆教員養成・現職研修の充実に向けて

- モデルカリキュラムに沿った授業を実施し、4年間を通じたICT活用指導力の向上を目指す。
- 良質な学習コンテンツやオンラインセミナーの映像などオンデマンドで活用できるコンテンツを共有するためのプラットフォームを構築する。